

ケミコンの技術化について

今後の労力不足時代には、集約度の高い果樹栽培では生産増どころか維持さえ困難となり、みかん以外の果物生産は益々減り、供給不足は甚しくなろう。みかんさえも生産の収益性は愈々低下し、早晩供給不足に陥いるおそれがある。そこで、果樹界は省力技術を要請し、SSをはじめ、運搬等の機械化が進められている。しかし、なお、機械化困難な栽培管理が少なくないので、これらを生長物質等の利用、ケミコンで省力をはかろうとしている。

果樹では早くよりケミコン利用が内外で研究されてきたが、技術革新といえるほど、技術化しているのは、我が国ではぶどうのGA利用くらいであって、他には極めて少ない。例をみかんの摘果剤にとると、みかんは近年、隔年結果が甚しく、なり年には着果過多で間引き、すなわち摘果をしないと小果となり、商品性がおちる。

しかし、昨今の労力不足では、愈々摘果は実行し難い。研究結果、手で行なう摘果の代わりにNAA剤の散布技術が開発された。ところが、なかなかこの技術が普及しない。これは、散布効果が樹種や気象など、色々の要因で動かされ、不安定であるからである。今後はNAA剤を広く利用してみて、色々の経験を通じて、その使い方を明らかにすべきである。これには、一方、本摘果はNAAで生理的落果を助長するのであるから、余りわかっていない生理的落果の機作をもう少し解明することも必要である。このように、開発に次いで、技術化にもっと力を入れなければならない。なお、安全に使えるような状態に樹をもたらす栽培が必要であることも、

目 次

(第7巻第9号)

中国の雑草と除草剤(2)

—畑作農業を中心として—

- (イ) はじめに…………… 2
 - (ロ) 華北～東北地区の畑作農業…………… 2
 - (ハ) 華北における乾燥地農法の典型… 3
 - (ニ) 中国の主要な畑雑草…………… 6
 - (ホ) 中国の畑地除草剤…………… 7
- 宇都宮大学農学部教授

竹 松 哲 夫

そ菜の施設栽培と生育調節剤

- 1. 生育調節…………… 9
 - (1) 生育促進…………… 9
 - (2) 生育抑制…………… 10
- 2. 開花調節…………… 10
 - (1) 雌花着生数増加…………… 10
 - (2) 開花促進…………… 10
- 3. 着果調節…………… 11
 - (1) 着果促進…………… 11
- 4. 成熟調節…………… 14
 - (1) 成熟促進…………… 14
- 5. 除 草…………… 14

茨城県園芸試験場そ菜部長

丸 川 慎 三

バラコートの土壌中における不活性化

—コールドーバンク博士講演より—

…………… 15

(財) 日本植物調節剤研究協会

ケミコン利用でとかく忘れやすい点である。

(農林省果樹試験場長 佐藤公一)